



# 12年前日記

---

2000年1月10日  
(月)

---

山田夫妻

---

## 『12年前日記 2000年1月10日(月)』

---

【2000年1月10日(月)】\*2012年1月10日(火)記

朝9時30分、起床。今日は勝負の日、人生において絶対負けられない戦いがあるとしたら、それこそが今日である。

腹ペコじゃ戦ができん、昨日セブンイレブンで買っておいた朝飯を貪り食う。

いざ出陣の前に、もう一回だけ、高級ホテルゆえせっかく部屋に電話がついているので、ミスターンドラーに未練たらしくもう一回だけ電話を試みるが、今日はこちらの言っていることか、あちらの言っていることか、そのどちらもがはっきりと分からない。これで16B也。

予感通り、アポなしで突撃取材決定！ その前に2、3やることありませ。

11時30分、土日だけの贅沢高いホテルをチェックアウト。大荷物を背負いながらの民族大夜逃げ。

12時、この高級ホテルの近くに安宿街があるので灼熱地獄の中、大荷物持ってヨチヨチ歩いて、ようやく昨晚ガイドブックで調べた『White Lodge Hotel』(400B)にチェックイン。

昨日までの半額だがエアコンとホットシャワーはあるすぐれもの。しかもキレイ。

白人が一杯泊まって汚く五月蠅く臭くなカオサンなんか行かずに最初からコッチにこれば、というか来るつもりだったんだ。この安宿街の近くには東急やサヤームセンターなどの大きいデパートやショッピング街があり、銀座って感じ。違うかも。

しかも更に頑張って30分ほど歩くとそごうや伊勢丹にも行けるのだ。さあ、余計なおしゃべりをしている場合じゃないから、逆におしゃべりが過ぎちゃう。もう余力は残っていない。でも、行かねばならぬ。この社会人のつらさ、立派な大人の責任感。

12時30分、荷物を解く間もなく、ホテルを後にして、こんなときでも、いや、こんなときだからこそ、8日目の昼飯もマック(100B)で腹ごなし。メータータクシー(70B)を拾い、ついに内務省の支店に乗り込む。

タクシーの運ちゃんにたらい回しの紙を渡し、内務省の支店みたいなところに連れて行って貰う。味気のない建物。中に入るとなんか入管みたいなところで、入管に行ったことはないけど、窓口がいくつか並んでいて、結構賑わっている。難民らしきもいるが、そこはかたなく漂う、ここはなんか違うんじゃない感。いくつもある窓口のうち、どこかにミスターさんがいるはず。彼に会えば何とかなるっしょ。ただし、俺の理解ではミスターさんがキーだけど、真相は闇の中。だから、どうした、イケイケドンドン。

ミスターは8番の窓口のめがね七三だった。「」という意味のことを話すも。何を言ってんだって顔。てめえ、俺は内務省のお偉いさんの紹介でわざわざ会いに来てやったんだぞ、下っ端、小童、小役人風情が、しかもわざわざアポ入れ電話を何回も掛けたのに、てめえが毎回居留守を使うから、こうしてアポなしで来てやったのに、はるばる日本から、誰にも頼まれていないのに。日本語も分からねえのか。

メガネ小役人に紙切れを貰う。またわらしべ長者、たらい回しの切符、タイ語が書かれた紙切

れを手切れ金みたいに手渡される。たらい回し●回目に遭遇した瞬間だった。タイ語で書かれた一枚の紙切れを手渡された。当然、流暢な日本語と拙いタイ語しか使えないので理解できない。その役人に説明を求めても、手振り身振りでこの紙を持ってとっとと帰りやがれと言うのみ。

タイのお役人の渡す紙切れは、京都のお茶漬けみたいなもんだろうか。もう帰っておくんなまし、ってか。そうどすえ〜。たらいまわしか。ええ、まわされてやるよ、まわってまわって、たらい回し日本代表として、日本国の威信を賭けてな。たらい回しでもなんでもいい、この細い糸を順にたどっていくしかない。だって、ここで難民キャンプへの道が絶たれたら、困っちゃう。

だって、例の義勇兵ルートの従軍取材の方も音沙汰なしなんだもん。最後の望みを託した紙切れ。せめて難民キャンプに行ければ、別の方法で従軍取材を頼み込めるかもしれない。

捕まえたタクシーの運ちゃんに紙切れをわたし、前の車を追ってくれと緊迫感を出してみる。しかし、困った顔をしている。俺の日本語上演の三文芝居が分からなくてもいいから、タイ語くらい読めるっしょ。しかししかし、何が困っているのか分からない。言葉が分からないからね。

昼飯後、メータータクシーを拾って、内務省の支店2へ。ちゃんと住所が書いてある紙を渡したのに迷いおって。最初から暗雲がたちこめつつあった。え、逮捕、投獄、強制退去、国外追放。支店2には何やら難民らしき人々がひしめいております。「本当にココでいいのかしらん。まあ、俺も難民みたいなもんだ」と自分で自分を納得させる。中にはカウンターが30以上あり、それぞれのカウンターに番号がついていて、難民らしき人々がそれぞれのカウンターに並んで何やらしている。

とりあえず近くのカウンターに座っている中年男性に「ユー、ミスタータンドラー？」と聞くと「ナンバー8だ」とそっけなく教えてくれる。ナンバー8のカウンターに並ぶ。二人しか並んでいないので、タンドラーったら人気薄、すぐに順番が来る。

そして、もう口癖みたいになれた口上を、なんと謙虚にも紙にまで同じことを書いてきて、タンドラーに渡す。不退転の決意が伺える。彼はとぼけた顔して、首をふったり、飽きたり。てめえ文盲か！ 何度も繰り返すも芳しい反応が返ってこない。最後は土下座せん勢いで、「ギブミーパーミッション」と米兵にチョコ貰うガキの勢い。俺の自称プロ戦場特派員の本気っぷりがつと知られている。

俺にそんなもん発行した日には後からどうなるかわからない。公務員丸出しでせめて自分の責任にはしたくない。じゃあ、せめてタライ回ししてくれ。いつの日か素敵な白馬に乗った公務員が現れて、俺に許可証をくれるはず。分かった分かった、腰抜けのお前にもう要はない、とっとと次のたらい回し先を教えろと作戦変更。最初のたらい回しの紙や二回目のたらい回しの紙を見せながら、こんな感じに次のたらい回し先を書いてくれ、俺を早くたらい回ししてくれとなんとか粘って、ネクストたらい回し先と繰り返し、はあ、うんざりって顔で何やら紙にサラサラ書くタンドラー。

最初からそうしていればよかったんだよ、面倒かけやがって。

自称プロ戦場特派員として難民キャンプ取材申請をした俺がなぜか難民扱いされた気がしない

でもない。極秘外遊中のVIPつかまえて。

すぐにタクシーを拾って、紙切れを手渡し、ココに行ってくれと。すると運ちゃんが困った顔をして、ココにはいけないという身振り手振り。お前も小役人の味方か！ たらい回しもしてくんねえのか、この国は。もう今日は縁起が悪い、8番ラーメンでも食って験を担ぎなおして明日出直しだってことでホテルまで送って貰う。

もう暑いし、昼寝の時間なので、たらいの上で踊るのは後日にして、一旦安宿に戻る。

そしたら「お前は何がしたい」と紙切れにタイ語で書いてあった不幸の紙切れ事件。せめて、手紙でくれ！

その紙切れには「お前は何が言いたいんだ」という趣旨のタイ語が書いてあったとな。急にタイ語が分かるようになったわけじゃない。これは戦場ジャーナリストの企業秘密だからこのカラクリは教えられない。情報提供者は絶対に明かせない。

紙切れを渡して、今すぐココに飛んでくれと。困った顔をするタクシーの運ちゃん。まさか字が読めないのか。なんかヤル気がそがれたので、一旦ホテルに帰ることに。しかしこのホテルにと名刺を渡したら、すぐにほっとした顔で頷いて出発進行。字読めるじゃん。納得いかないままホテルのフロントのおばちゃんに、「ココに行きたいんだけど、どこなの？」と今度は紙切れを渡す。

困った顔を浮かべるおばちゃん。ん？ やさしさだろうね、婉曲的に約してコレだもん。タイ語では何と書いてあったか。あのクソタンドラーの野郎。どんぞこスタート。もう後は成長譚。成功譚。とりあえず作戦会議。昼行灯作戦。これよ、これ。ひとりですべて責任を背負い込むってのは。練習せずにチョモランマみたいな。

15時30分、本日はこれ以上のたらい回しを断念し、メータータクシー（60B）でホテルに戻る。フロントのおばちゃんに訳して貰う。

仕方なく泊まっていた安ホテルのおばさんに翻訳して貰った。フロントのおばちゃんに紙切れを手渡し、コレがなんて書いてあるか聞く。英訳してくれたところ、*this man what say?* と。エイゴ、ワカリマセ〜ン。ウソデ〜ス、シヨクミンチキョウイクノタマモノデ、「お前は何が言いたいんだ」と和訳できました。きっとフロントのおばちゃんが気を利かしてくれたからこの程度で済んだけど、もし原文が読めりゃ「このクソジャップは何をトチ狂ったことを言ってやがる」くらい書いてあっただろう。

フロントのおばちゃんの困った顔がそれを如実に証明していた。まあ、乗り込んできた外人にいきなりそんな紙切れを手渡された運ちゃんも困ったはずだ。そういや、「あちゃ〜、ジンガイのガイキチを拾っちゃった」って顔してた気が、うん、確かにしてたしてた。

後日、タイは官僚主義のお国で、しかも面倒臭いことはしないお国柄。その紙切れには「この日本人は一体何を言っているんだ」と書いてあったそう。めでたしめでたし...くそ、土人のあ

まりの言い種に腹を立てて、朝からビールを飲むようになった。土人発言のところに(今、不適切な発言がございましたが、当時の気持ちを尊重し原文ママ、差別を助長する気はないから別にいいじゃん。)。でも、証拠写真や証拠VTRはない、なけなしの金で大量のフィルムやテープがもったいなくて、結局、使わず仕舞い。だって、本番は難民キャンプや従軍取材なんだから、それまではフィルムやテープを節約しなきゃね。

往復のメータータクシー代(130B)を使って、こんな胸糞悪い紙切れをゲットしたみたいなもんだ。

国際親善試合のつもりだったが、もうコレ(ミスタータンドラーとの交渉)は国と国の代理戦争、絶対に負けられない第三次世界大戦、祖国で待つ銃後の女子供のためにも、燃えたよ燃え尽きた真っ白な灰にな、でも負けてはない、あくまで終戦だから。企業努力で消耗戦を続けるのにも限度がある。

大事に大事にそっとそっと手繰り寄せてきた糸は音もなく消えて、途方にくれる俺もかっこいいぜ。

とりあえず、大事なことは一旦置いておいて、どうでもいい瑣末な些細なこの不祥事を検証してみましょう。

一体、俺の何が悪かったか。賄賂のひとつもおくるべきだったか。そもそも正攻法にこだわる必要はなかったのでは。というか、菊のご門の日本のパスポートもビザも持っていたのに難民と間違えられた？というわけで、長い回り道というか、正攻法とは違う方法を今も取り続けているわけですが。

やっぱ内務省にたらいまわしのたらいはあのドジン役人でぷつりと切れたまま。俺の心もぷつりと切れたまま。心が折れた。取材パスがないと、従軍取材もダメになる。

その心いかに。カレンの義勇兵に手紙を託したが音沙汰ないままタイに来てしまっていた。一応、フリーメールなるものを作って、教えておいたのでそちらに連絡があるかもしれないが一縷の望み。

最後の手段はカレンの難民キャンプで新たな伝手を探して従軍する作戦。

16時30分、街に繰り出す。ヤケ買いでいらぬものを買込む。ガム(5B)はクチャクチャ噛んでやさぐれ感を、レポート用紙(20B)は遺書を書いたり、あの土人に不幸の手紙を書いたり。そして、いつもはセブンアップなのにペプシ(13B)で毒舌の一杯の清涼感を。そして極めつけは、夕飯はとうもろこし(10B)のみ。ちょっと、それだけじゃ、早晚餓死しちゃうよ。いいんだよ、ハンガーストライクの狼煙をあげたんだから。

あ、甘いたれがズボンにたれた。このズボンは洗わないんだから。一張羅で一枚しかないんだし。しばらくシミを気にする。そんな時間だけ、つらいことを忘れられる気がするの。

20時、セブンイレブン(67.5B)で、いつもより多めに買い込み、あら、さっそくの不

正行為かしら。モグモグカミカミゴクン。そんなことよりも、この先、どうするべ。柿森ルートが途絶えたから、難民キャンプで取材しながら、新たなルートを構築しようと思っていたのに。まあ、難民キャンプの周りに壁が張り巡らされていたり、お堀が彫ってあったりするわけではないので、入るのは可能なようだ。しかし、なかでビデオカメラだカメラを回して取材していたら、確実に見つかるだろうと。一回くらいなら袖の下を渡せばいいだろうが。

すげえ青写真。未来予想図。将来設計。とりあえずどうするっぺ。田舎っぺ。昨日の宿題である、仕事の収支決算は第一次バンコク慣れ、チェンマイ静養、第二次バンコク慣れ、内務省たらい回し、くらいである。儲けるとか儲けないの問題じゃねえ。一銭も儲からなくても、赤字だらけでも、誰もが知ってようが誰も知らなからうが関係ねえ。俺が好き好んで選んだ修羅の道。もう寝よ。

1時、以上のような走り書きを書き散らし、就寝。

紙切れ一枚あれば、難民キャンプで自由に取材撮影を、カメラに子供が群がる。

二次資料の「難民キャンプ図書館」によると組織がやっても、●日かかると。

○本日の出費、「計算するのが面倒臭いから、各々で適当にしといてよ」B。ついでに一日の流れも「いちいちうっとうしいから誰か簡単にまとめといて」ジャ〜。

『12年前日記 2000年1月10日(月)』

<http://p.booklog.jp/book/42158>

著者：山田夫妻

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/yamadafusai/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/42158>

ブックログのpapier本棚へ入れる

<http://booklog.jp/puboo/book/42158>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのpapier (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社：株式会社paperboy&co.